

市民・事業者・行政等全ての人がそれぞれの役割を
担いながら、協働して赤磐市の未来を創ろう！



赤磐市市民憲章

赤磐市は、豊かな自然と歴史、文化が調和したうるおいあふれる住みよいまちです。
わたしたちは、このまちの市民であることに誇りと責任をもち、先人たちが築きあげた
郷土と伝統ある文化を守りながら、活力にみちた安全で安心なまちをつくるため、この
市民憲章を定めます。

- 1 お互いを尊重し、笑顔が輝くまちにします。
- 1 美しい自然と郷土を愛し、未来に伝えます。
- 1 いのちを大切にし、心とからだを健やかにします。
- 1 いきいきと働き、まちに活力をあたえます。
- 1 生涯を通じて学び、知恵と勇気とやさしさをそなえます。

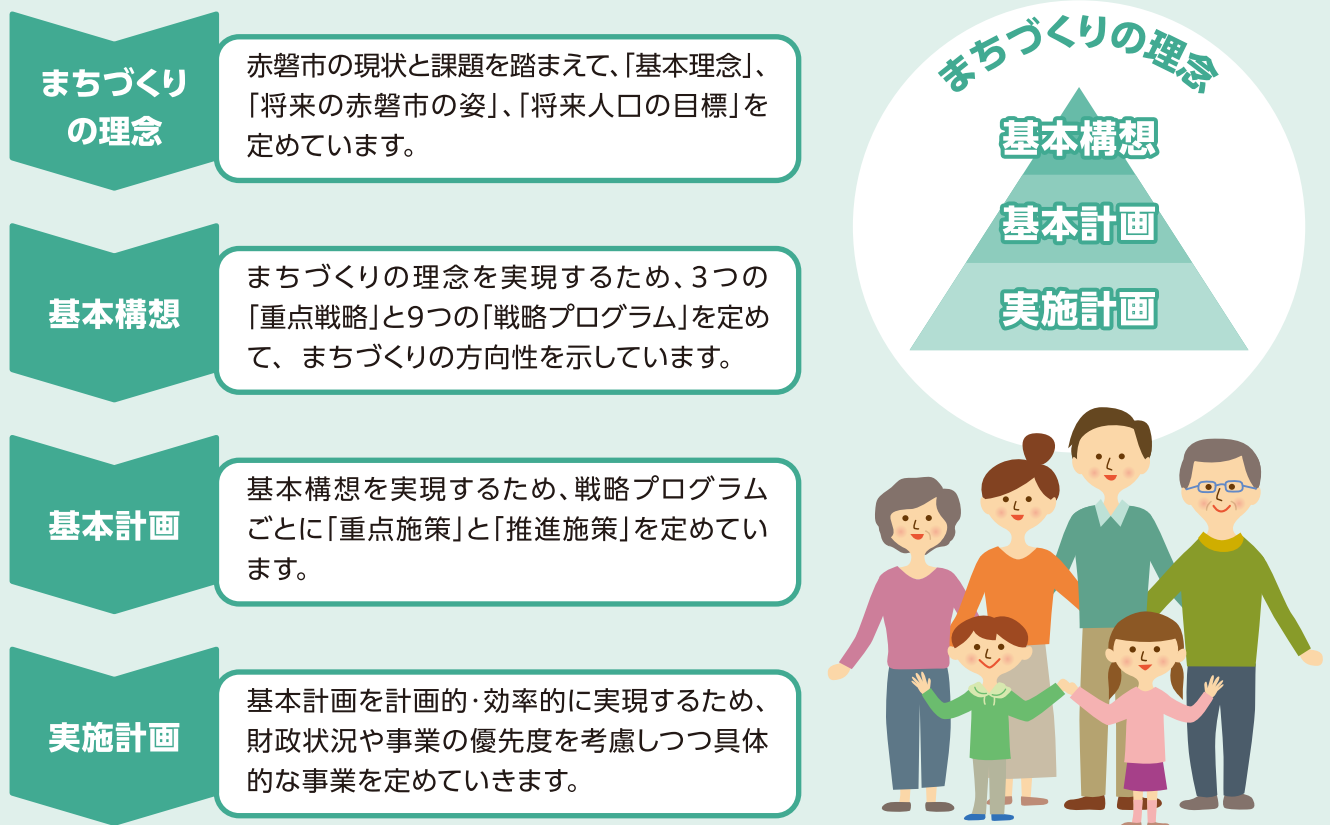
計画策定の目的

人と人、人と地域の絆が大切にされ、市民、地域、事業者、行政がともに支えあい、協働によりまちづくりが進められるよう、市民、地域、事業者、行政それぞれが具体的に果たすべきことを共有できる指針として第2次赤磐市総合計画を策定しました。

今後は、この計画を指針として、すべての赤磐市民が夢を持つことができるよう、市民と行政が力を合わせ、「ひと」を中心としたまちづくりに力を注いでいきます。そして、総合計画の中の基本計画が5年目をむかえ、見直しを行い、一部改訂をしました。

計画の構成と期間

総合計画では「まちづくりの理念」を定め、この理念を実現するために「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つを定めています。また、それぞれの役割に応じて期間を設定しています。



年度	H27	28	29	30	R1	2	3	4	5	6
基本構想	基本構想(10年間)									
基本計画	基本計画〈前期〉(5年間)					基本計画〈後期〉(5年間)				
実施計画	実施計画(3年間)			実施計画(3年間)		毎年度見直し				

基本理念

この基本理念を念頭に置き、継続性を持ってまちづくりを進めていきます。

つながり

市民と行政が一体となって地域を築くことで、愛着と誇りを持てるまちを目指します。

うるおい

恵まれた自然や地域文化を守り、こころ豊かで潤いのあるまちを目指します。

にぎわい

産業の振興や観光振興等により、活力と賑わいのあるまちを目指します。

あんしん

住環境をさらに高め、安全・安心に暮らせる快適なまちを目指します。



将来の赤磐市の姿

基本理念を踏まえて、赤磐市が目指す将来のまちの姿を表しました。

人“いきいき”まち“きらり” 活力ある、住みよい、住みたい、赤磐市

人“いきいき”まち“きらり”

「人と人」、「人と地域」、「地域と地域」等の多様なきずなや結びつきが原動力となって協働によるまちづくりが推進され、人もまちも輝いて魅力が向上しています。

活力ある、住みよい、住みたい、赤磐市

高まったまちの魅力により、赤磐市に「また訪れたい」、「住んでみたい」、「住み続けたい」と感じる人が増え、まちに人が集まり、地域が活性化しています。

将来人口の目標

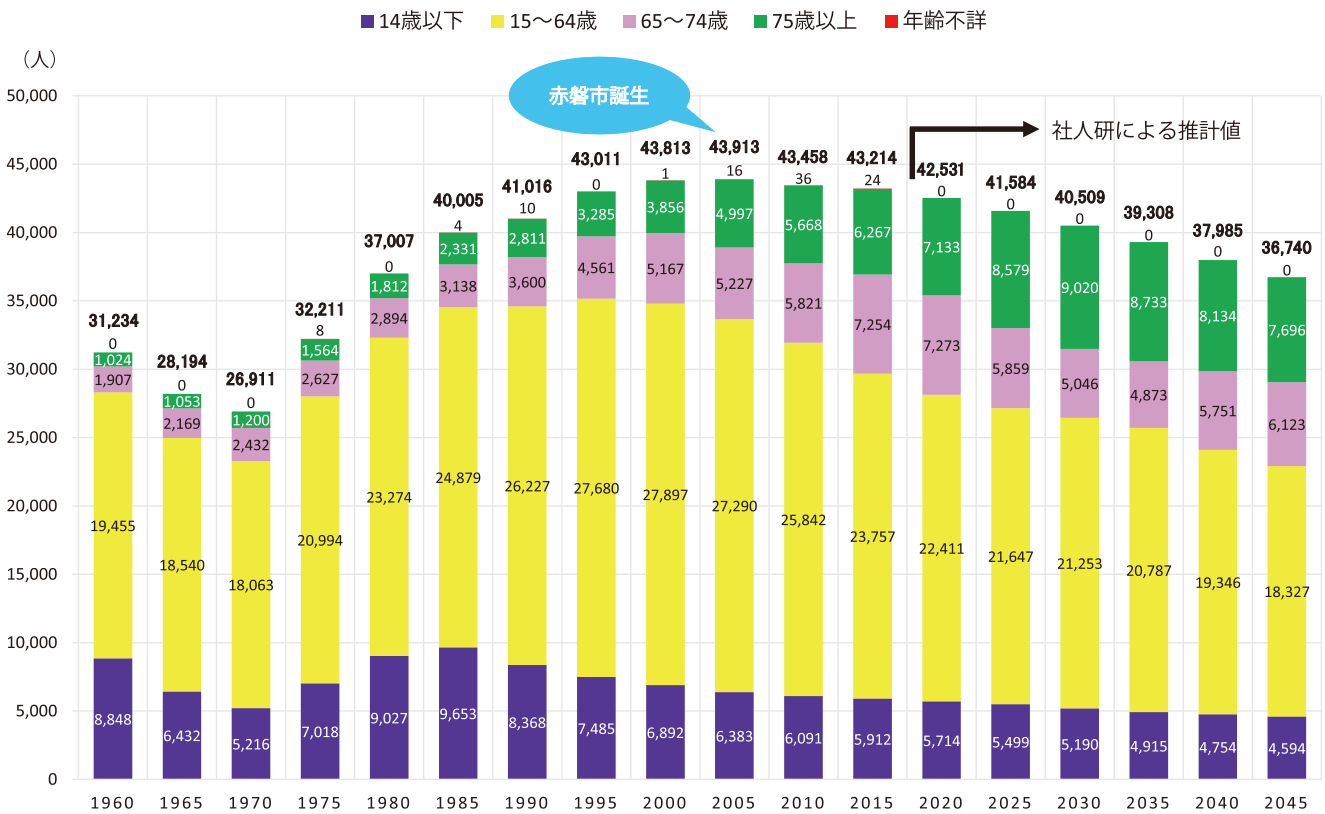
推計されている人口減少を食い止め、人口を維持・伸長させていくための取組の指針として、将来人口の目標を設定しました。

令和6年(2024)年度末の赤磐市の総人口目標

42,000人

人口推計(赤磐市全体)

年齢4区分別人口の推移と将来推計



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」



基本構想

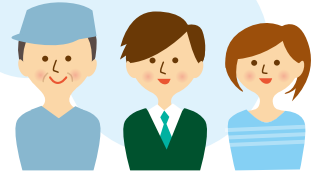
人ごきごき“まち”をらり

活力ある、住みよい、住みたい、赤磐市



重点戦略Ⅰ

経済・産業に活力があり、
ひとが集まる
まちを創る



重点戦略Ⅱ

安心して子育てができ、
次代を担うひとが育つ
まちを創る



重点戦略Ⅲ

多彩な人材の活躍により、
地域が活性化している
まちを創る



基本計画

戦略プログラム

企業誘致による安定的で良質な雇用創出プログラム

- 新たな企業用地の確保
- 規制の見直しによる企業誘致の促進
- 積極的な企業誘致の展開
- 魅力的な企業の誘致促進
- 立地企業の人材確保支援

- 地域の若者の定着、U I J ターン就職の推進
- 優れた創業環境の情報発信
- 広域交通網基盤の整備促進
- 誘致した企業への支援

商工業・観光振興による賑わいと活力創出プログラム

- 産業振興人材の育成
- 交流・連携等による地域産業の活性化
- 創業のための包括的支援
- 周遊・滞在できる観光ルートの形成
- シティプロモーションの推進

- 観光受入体制の整備
- 事業継続のための支援
- 地域文化・芸術の振興並びに文化財保護

強い農業の確立プログラム

- 経営感覚を持った農業経営者の育成
- 農産物の高付加価値化・地域ブランド化の推進
- 6次産業化・次世代農業の推進

- 担い手への農地集積と生産基盤の整備
- 多面的機能の発揮
- 農産物の鳥獣被害対策

安心して家庭を築ける環境創出プログラム

- 若者の経済的自立
- 多様な働き方の提案
- 世帯のニーズに対応した住宅助成の充実
- 結婚に結びつく支援の推進

- 地域の若者の定着、U I J ターン就職の推進(再掲)
- 日常生活に不便のない地域の形成
- 支えあいによる地域のつながり

安心して出産・子育てができる環境創出プログラム

- 出産・子育ての不安に対する情報・サービスの提供体制の整備
- 子どものけが、病気等への対応
- 子育てサービス・保育サービスの充実
- 地域ぐるみの子育て支援(地域の子は地域で育てる)

- 仕事と子育ての両立の支援
- 母と子の健康推進
- 親同士の交流促進
- 不妊・不育への支援

子どもが健やかに育つ教育環境創出プログラム

- 学習環境の整備
- 確かな学力の定着に向けた教育の充実
- 郷土の魅力を認識できる教育活動の推進
- 心身ともに健康な幼児、児童、生徒の育成
- 家庭・地域社会の教育力の充実

- 幼児教育の充実
- 幼保こ小中連携の推進
- 特別支援教育の充実
- 豊かな心の育成とふれあいのある教育の推進
- 食育の推進

移住・定住が進むまち創出プログラム

- 赤磐市の魅力発信の推進
- 移住・定住を支援する体制の充実
- 移住費用軽減施策の充実
- 移住・定住がかなう働く場の確保
- 魅力的な中心市街地の形成
- 移住希望者の大型住宅団地への受け入れ促進

- 障がい者福祉の充実
- 災害に強い地域づくり
- 防災体制の強化
- 生活の安全確保対策
- 快適な生活環境の保全推進

支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム

- 市民が主体のまちづくりの推進
- 支えあいによる地域のつながり(再掲)
- 公共交通機関の整備・確保と利用促進

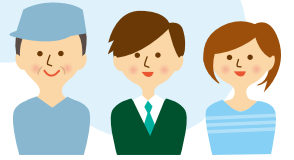
- 人権尊重社会の形成
- 男女共同参画社会の形成
- 安心して利用できる道路等の整備

高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出プログラム

- 高齢者の就労支援と社会参加への支援
- 生涯を通して健やかに暮らせる生活の質の向上推進
- 地域での支えあい

- 地域医療体制の整備
- 救急医療体制の充実強化
- 生涯学習の推進
- 生涯スポーツの推進

経済・産業に活力があり、 ひとが集まるまちを創る



働くところを
つくって、まちに
活力を!

PROGRAM
1

企業誘致による安定的で 良質な雇用を創出しよう!



目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

新たな企業用地の確保	6 ha以上(平成30年度末 民間開発を含む6.1ha)
新規企業立地件数	7 件(平成30年度末 操業を開始した企業5件)
新規立地企業の雇用創出数(累計)	55 人(平成27年度～平成30年度) → 300 人(令和2年度～令和6年度)

行政が
やります



市民も
やります



企業も
(団体等)
やります



- 新たな企業用地の確保
- 規制の見直しによる企業誘致の促進
- 積極的な企業誘致の展開
- 魅力的な企業の誘致促進
- 立地企業の人材確保支援
- 地域の若者の定着、U・I・Jターン就職の推進
- 優れた創業環境の情報発信
- 広域交通網基盤の整備促進
- 誘致した企業への支援

- ・地元で就職して暮らしていくライフデザインを描き、選択する。
- ・地元に戻り、就職することを選択する。

- ・事業者は、各種の支援を受けることにより、赤磐市内での立地や増設拡張を図り、新たな雇用を拡大する。

魅力ある
まちをみんなで
つくろう!

PROGRAM
2

商工業・観光振興による賑わいと 活力を創出しよう!



目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

新規創業者数(累計)	40 人(平成27年度～平成30年度) → 50 人(令和2年度～令和6年度)
赤磐市ホームページ 月平均アクセス数(トップページ)	19,635 件/年(平成30年度) → 20,030 件/年(令和6年度)
観光入込客数 (岡山県観光客動態調査)	383,000 人/年(平成30年) → 470,000 人/年(令和6年)

行政が
やります



- 産業振興人材の育成
- 観光受入体制の整備
- 交流・連携等による地域産業の活性化
- 事業継続のための支援
- 創業のための包括的支援
- 地域文化・芸術の振興並びに文化財保護
- 周遊・滞在できる観光ルートの形成
- シティプロモーションの推進

市民も
やります



- ・赤磐市の支援を受け、自ら進んで創業に挑戦する。
- ・市内で購入できるものはできるだけ市内で購入し消費することで、市内企業等の振興に寄与する。
- ・市内の史跡、文化財を訪れて赤磐の歴史文化を再発見し、地域の歴史や文化について語れる市民になる。
- ・赤磐市の特長、観光地、史跡、特産品等を知ることによって、友人・知人等に対し、赤磐市の魅力を広くPRしていく。

企業も
(団体等)
やります



- ・商工会、金融機関、大学、研究機関等と交流・連携して、事業の拡大やイノベーションを図る。
- ・観光資源の掘り起こしや観光協会等を通じた観光情報の提供を行う。
- ・NPOや市民団体は、地域の観光魅力づくりに関わる活動のけん引役になる。
- ・観光関連事業者・団体は、集客に関する事業の展開や事業に携わる人材の確保・育成を行う。

PROGRAM
3

強い農業を確立しよう！

目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

新規就農者数	67人(平成30年度末) → 107 人(令和6年度末)
6次産業事業認定	4団体(平成30年度末) → 6 団体(令和6年度末)
学校給食における地場食材利用率	毎年 65% 以上(平成30年度 51.8%)

食は大切！
地産地消を
めざそう！

行政が
やります



- 経営感覚を持った農業経営者の育成
- 農産物の高付加価値化・地域ブランド化の推進
- 6次産業化・次世代農業の推進
- 担い手への農地集積と生産基盤の整備
- 多面的機能の発揮
- 農産物の鳥獣被害対策



市民も
やります



- ・市民は、地域の農産物・加工食品等を地元直売所や小売店で積極的に購入して消費したり、市域内外の友人・知人等へのPRに努める。

企業も
(団体等)
やります



- ・経営者は、消費者のニーズの把握に努め、購買志向の高い農産物・加工品の生産に積極的に取り組む。
- ・経営者は、地域ブランドの確立や高品質の維持など、地域特産ブランドの開発や育成に向けてお互いに連携し、協調する。
- ・地域住民は、農業・農村の多面的な機能について理解し、地域ぐるみで行う草刈り、水路の泥上げなどの環境保全活動により、有害鳥獣対策の活動や集落環境の改善につながることを理解し、地域全体で積極的に取り組む。

安心して子育てができ、 次代を担うひとが育つまちを創る



PROGRAM
1

安心して家庭を築ける 環境を創出しよう!

子どもたちが
安心してくらす
るまちにしよう



目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

新婚世帯家賃助成交付数 **18**件/年(平成30年度) → **30**件/年(令和6年度)

20～30歳代の転入者数 **714**人/年(平成30年度) → **790**人/年(令和5年中)
(総務省公表の住民基本台帳人口移動報告による)

行政が
やります



- 若者の経済的自立
- 多様な働き方の提案
- 世帯のニーズに対応した住宅助成の充実
- 結婚に結びつく支援の推進

- 地域の若者の定着、U・Iターン就職の推進(再掲)
- 日常生活に不便のない地域の形成
- 支えあいによる地域のつながり

市民も
やります



- ・多様な働き方を知り、希望する働き方を選択する。
- ・地元で就職して暮らしていくライフデザインを描き、選択する。
- ・地元に戻り、就職することを選択する。
- ・住民同士の助け合いによる地域支えあいに積極的に参加する。

企業も
(団体等)
やります



- ・関係者と連携しながら、地域の若者が結婚に結びつく支援を行う。



安心して出産・子育てができる環境を創出しよう！



子どもたちの元気な声は、まちを元気にするよ

目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

子ども家庭総合支援拠点	1 箇所（平成30年度末時点 0箇所）
認定子ども園の数	4 箇所（平成30年度末時点 2箇所）
乳児健診受診率	93.3 %（平成30年度）→ 95.0 %（令和6年度）
合計特殊出生率	1.59 （平成28年岡山県衛生統計年報）→ 1.61

行政が やります



- 出産・子育ての不安に対する情報・サービスの提供体制の整備
- 子どものけが、病気等への対応
- 子育てサービス・保育サービスの充実
- 地域ぐるみの子育て支援（地域の子は地域で育てる）
- 仕事と子育ての両立の支援
- 母と子の健康推進
- 親同士の交流促進
- 不妊・不育への支援

市民も やります



- ・地域コミュニティに参加し、地域ぐるみの子育て活動の活性化を推進する。
- ・子どもの成長過程で必要な健診や予防接種等を積極的に受け、子どもの健康を守っていく。
- ・子育てに大切な情報を収集する。

企業も （団体等） やります



- ・愛育委員会、栄養委員会では、地域の資源を有効活用し母子事業の企画運営を行い、地域交流を推進する。



あかいわ魅力発見フォトコンテスト優秀作品

子どもが健やかに育つ 教育環境を創出しよう！

規則正しい
生活が勉強に
も役立つよ



目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

「授業の内容がよくわかる」と答える児童・生徒の割合(全国学力調査小・中学校全教科の平均値)

75.9%(平成27年度～平成30年度の平均)
→ **80.0%**(令和2年度～令和6年度の平均)

全国学力調査の結果(全国平均正答率との差)

マイナス2.1ポイント(平成27年度～平成30年度の平均)
→ **0**ポイント(令和2年度～令和6年度の平均)

学校非構造部材耐震化率 **100%**(平成30年度末時点 22.8%)

普通教室の無線LAN整備率 **100%**(平成30年度末時点 29.4%)

家庭教育講座参加者 **1,144**人／年(平成30年度)
→ **1,250**人／年(令和6年度)

ヤングボランティア養成事業参加者(中高生の地域活性化事業参加者)数(累計)
406人(平成27年度～平成30年度) → **700**人(令和2年度～令和6年度)

行政が やります



- 学習環境の整備
- 確かな学力の定着に向けた教育の充実
- 郷土の魅力を認識できる教育活動の推進
- 心身ともに健康な幼児、児童、生徒の育成
- 家庭・地域社会の教育力の充実
- 幼児教育の充実
- 保幼こ小中連携の推進
- 特別支援教育の充実
- 豊かな心の育成とふれあいのある教育の推進
- 食育の推進

市民も やります



- ・家庭において、「早寝・早起き・朝ごはん」を実践する。
- ・地域に住む子どもたちへの声かけを積極的に行い、地域の良さを伝え、子どもたちの話を聞く場を設定する。
- ・学校園の行事や支援ボランティア等に積極的に参加する。
- ・家庭においても食育に取り組む。

企業も (団体等) やります



- ・家庭・地域・学校において、お互いが気持ちの良いあいさつ・言葉かけを行う。
- ・お互いのつながりを深め、子どもの話題を気軽に話すことができるような地域づくりに努める。



多彩な人材の活躍により、地域が活性化しているまちを創る

PROGRAM
1

移住・定住が進むまちを創出しよう！

新しく住む人
たちをあたたく
むかえよう



目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

空き家情報バンク成約物件数(累計)

32件(平成27年度～平成30年度) → 40件(令和2年度～令和6年度)

転入者数(総務省公表の住民基本台帳人口移動報告による)

1,300人/年(平成30年転入者数 1,356人)

行政が
やります



- 赤磐市の魅力発信の推進
- 移住・定住を支援する体制の充実
- 移住費用軽減施策の充実
- 移住・定住がかなう働く場の確保
- 魅力的な中心市街地の形成
- 移住希望者の大型住宅団地への受け入れ促進
- 障がい者福祉の充実
- 災害に強い地域づくり
- 防災体制の強化
- 生活の安全確保対策
- 快適な生活環境の保全推進

市民も
やります



- ・当事者意識を持って、定住しやすいまちづくりに取り組む。
- ・まだ使えそうな物は捨てずにリユース(再使用)する。
- ・日頃から避難場所、援護必要者、避難経路等を確認し、災害に備える。
- ・住宅用火災警報器を設置する。
- ・交通安全、防災意識等、安全安心への高い意識を持つ。

企業も
(団体等)
やります



- ・地域全体で移住者の受け入れ意識の醸成を図る。
- ・地域コミュニティの機能を発揮して地域で支えあうことにより、定住しやすい環境を創る。
- ・地域で避難訓練等に取り組み、防災意識を向上させる。
- ・地域は、自主防災組織を結成し、活動する。
- ・消防団協力事業所に登録する。
- ・事業者は、市と災害協定を締結する。
- ・事業者は、消費者に安全安心な商品を届ける。

PROGRAM
2

支えあいを中心とした協働によるまちづくりを推進しよう！

協力し合って
楽しいまちに
しよう



目標指標（5年間（令和6年度末）の目標）

市民活動実践モデル事業(累計)

25団体(毎年5団体)

地域支えあいのための取組を行う新たな組織(累計)

5組織(毎年1組織)

行政が
やります



- 市民が主体のまちづくりの推進
- 支えあいによる地域のつながり(再掲)
- 公共交通機関の整備・確保と利用促進
- 人権尊重社会の形成

- 男女共同参画社会の形成
- 安心して利用できる道路等の整備

市民も
やります



- ・身近なところから人権について考え、人権について正しい知識を身につけ日常生活に活かす。
- ・男女共同参画についての意識を持ち、家庭・地域・職場等で実現させていく。
- ・「自分たちのまちは自分たちで創る」という意識を持ち、地域活動や市民活動に積極的に参加する。

企業も
(団体等)
やります



- ・事業者や団体は、主体性を持って積極的に市政、地域活動に参画する。

PROGRAM
3

高齢者が生きがいを持ち 元気に暮らせる地域を創出しよう!

地域で
支えあおう



目標指標(5年間(令和6年度末)の目標)

シルバー人材センター会員数	381人(平成30年度) → 430 人(令和6年度)
特定健診実施率(法定報告値)	28.5%(平成29年度) → 33 %(令和5年度)
要支援や要介護を必要としない高齢者の割合	83.4%(平成30年度) → 85 %(令和6年度)
認知症サポーター養成数(累計)	3,040人(平成27年度~平成30年度) → 4,800 人(令和2年度~令和6年度)

行政が
やります



- 高齢者の就労支援と社会参加への支援
- 生涯を通して健やかに暮らせる生活の質の向上推進
- 地域での支えあい
- 地域医療体制の整備
- 救急医療体制の充実強化
- 生涯学習の推進
- 生涯スポーツの推進

市民も
やります



- ・高齢者は、社会の担い手として、自身の知識や経験を生かして積極的に地域貢献やボランティア活動に参加する。
- ・「自分の健康は自分で守る」という意識を持つことで、高齢者になっても健康で質の高い生活を送る。
- ・疾病の早期発見・早期治療のために積極的に健康診査等を受診する。
- ・救急医療のコンビニ受診や救急車をタクシー代わりに使うなどの不適正な利用はしない。

企業も
(団体等)
やります



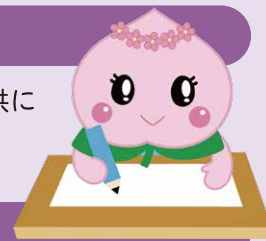
- ・事業者は、検診や健康相談の体制を整え、従業員の健康管理を積極的に支援する。

基本計画の進め方

重点戦略Ⅰ～Ⅲの推進に当たっては、以下の視点に立って、実効力のある施策を展開していきます。

情報公開・情報提供・情報共有化

- ◆透明性の高い公平・公正な行政運営を進めるため、的確でわかりやすい情報提供に努めるとともに、公聴機能の充実に努めます。



市財政の健全化

- ◆市の発展を支える足腰の強い財政基盤を築くため、行財政改革の指針である大綱を策定し、財政の健全化を進めます。

行政組織の強化

- ◆研修の実施や他の機関との人事交流等、職員の意識改革と人材育成に取り組み、市民と信頼しあえる組織づくりに努めます。
- ◆効率的な組織体制の構築や事務事業の見直し等により、計画的な定員管理と職員の適正配置を図ります。

公共施設等の有効活用と適正化

- ◆次世代に負担を回さないよう、長期的な視点で計画的に公共施設等の見直しを行います。

土地利用構想

- ◆生活サービスを向上するための社会基盤づくりの要素を併せ持つ土地利用を長期的な視点に立って戦略的に進めていき、地域交流・地域支えあいの拠点となるような地域を複数形成することで、市内のどこに住んでいても安心して暮らし続けることのできる良好な定住環境を創造していきます。
- ◆多様な個性が発揮された魅力的なまちの形成が図られるよう、規制の見直しも含めて計画的で適切な開発を誘導しつつ、無秩序な開発や拡散は抑止していきます。

まちづくり構想

- ◆それぞれの地域の課題・資源に応じたまちづくりを進めながらも、市全体が発展するための観点を持って、地域間の連携や機能の補完によってバランスの取れたまちづくりを目指します。
- ◆活力ある地域の形成を進めていくため、行政のみが施策を推進するのではなく、市民自ら住む地域のことを考え、決定し、多様な主体と協働する住民自治によるまちづくりを進めていきます。

地方創生の取組

- ◆国が策定した第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略における新たな視点「地方へのひと・資金の流れを強化する」「新しい時代の流れを力にする」「人材を育て活かす」「民間とも協働する」「誰もが活躍できる地域社会をつくる」「地域経営の視点で取り組む」を踏まえて、施策を推進していきます。





第 2 次 赤 磐 市 総 合 計 画

平成28年3月 発行
令和 2 年 3 月 一部改訂
編 集 ・ 発 行 赤 磐 市

〒709-0898 岡山県赤磐市下市344
URL : <http://www.city.akaiwa.lg.jp/>